

連続講座 新・大阪学事始「なにわ古代史2」

巨大古墳の謎 ー百舌鳥・古市古墳群ー ②

## 百舌鳥・古市古墳群の造営

ーなぜ河内・和泉に集中ー

2019年9月12日 柏原市立歴史資料館 安村 俊史

### はじめに

世界遺産に認定された百舌鳥・古市古墳群ですが、実態のわからない古墳が多数あり、その年代や内容について評価するのは、むずかしいことが多いのです。その原因のひとつは、巨大古墳がすべて陵墓に治定され、発掘調査はもちろん、立ち入ることさえできないからです。その限られた資料から両古墳群について分析し、なぜ河内・和泉に巨大古墳が集中するのか考えてみたいと思います。

### 1. 百舌鳥・古市古墳群の立地

#### ○河内と和泉

- ・もともと和泉国はなかったので、両古墳群ともに河内にあったと考えるべき。
- ・和泉国 霊龜2年(716)に大鳥・和泉・日根郡を和泉監に。  
天平12年(740)に河内に復す。  
天平宝字元年(757)に和泉国設置。

#### ○台地・丘陵上に立地

- ・平野ではない。耕作地ではない。
- ・古墳群造営までは未開墾地で、樹木が繁茂していただろう。

#### ○古市古墳群

- ・石川左岸 難波ー河内湖ー大和川
- ・河内の奥部。大和への入口。
- ・大和川水系を重視。

#### ○百舌鳥古墳群

- ・大阪湾を重視。ただし、海から見えるのは、大山古墳、石津丘古墳、田出井山古墳だけで、ほかの古墳は見えない。
- ・海からの眺望を重視するならば、なぜ上町台地上に築造しなかったのか。
- ・古市古墳群と百舌鳥古墳群は別の古墳群と考えるべき。
- ・両古墳群がほぼ東西に位置することを重視する研究者もいるが、重視する必要はないであろう。

### 2. 古墳の内容

#### ①墳丘

- ・巨大前方後円墳を中心に、中小の古墳、円墳・方墳も。
  - ・古市古墳群には方墳が多い。
  - ・自然地形の利用。もとの地形を整形して盛土。
  - ・周濠 二重濠の出現。水濠を前提としたものではない。多くは近世のため池。
  - ・陪冢(陪塚) 大型古墳の周囲に立地。埋葬が認められない古墳も。  
誉田御廟山古墳 ニツ塚古墳、盾塚古墳は御廟山に先行。  
アリ山古墳(45m)は副葬品埋納施設(刀剣・鉄鏃・農工具)。  
墓山古墳(225m)が応神天皇陵の陪冢とされている。
  - ・葺石 墳丘を覆う。墳丘保護とともに、外観を意識。白く輝く小山。
  - ・埴輪 墳丘各段に立ち並ぶ円筒埴輪。多彩な形象埴輪。
- ☆墳丘規模 巨大古墳=大王墓とするが、それでまちがいないだろうか。

#### ②埋葬施設

- ・ほとんどが未確認。
- ・津堂城山古墳  
明治45年(1912)に後円部埋葬施設が露見、調査。  
竪穴式石室内に大型の長持形石棺。豊富な副葬品。
- ・大山古墳  
『全堺詳志』(宝暦7年・1757)に、「御廟ハ北峯ニアリ、石ノ唐櫃アリ」。  
長さ1丈5寸(318cm)、幅5尺5寸(167cm)、厚さ8寸(24cm)ー石棺蓋石か。  
明治5年(1872) 堺県令税所篤(1827~1910)の調査  
4月 教部省に仁徳天皇陵の清掃を申請。  
9月 前方部前面斜面で小石を取り除くと竪穴式石室発見。  
石室長3.6~3.9m、幅2.4m。  
長持形石棺 長さ2.7m、幅1.45m。「亀ノ甲ノ如シ」。  
金銅装小札鋳留眉庇付冑、横矧板鋳留短甲、ガラス容器、大刀出土。  
明治6年5月 清掃が進んでおらず、中止命令。小屋の撤去。  
明治7年5月 古墳の発掘禁止令。
- ・大塚山古墳(168m)は粘土槨。  
⇒巨大古墳は竪穴式石室内に長持形石棺。  
長持形石棺は大王の棺といわれる。  
石室・粘土槨・直葬、石棺・木棺等による格差が想定される。

#### ③副葬品

- ・前期 銅鏡、装身具中心。呪術的。
- ・中期 武器、武具、馬具。軍事的。

### 3. 5世紀の変革

○東アジアの国際関係の緊張

- ・高句麗との対抗、百済との同盟。
- ・広開土王碑文 404年、倭が高句麗に大敗。
- ・騎馬軍団との戦い

⇒武器・武具の鉄器化、増産。馬の飼育。

古墳副葬品の軍事的性格。

墳丘の巨大化にも影響か。

○多数の渡来人 技術・文化・文字をもたらす。

- ・鍛冶技術の向上。馬飼技術。須恵器生産。文字の使用。
- ・河内湖周辺から韓式系土器多数出土。

⇒河内湖周辺に渡来系氏族が多数移住し、さまざまな技術等をもたらした。

⇒難波（河内）は、大陸への窓口であった。

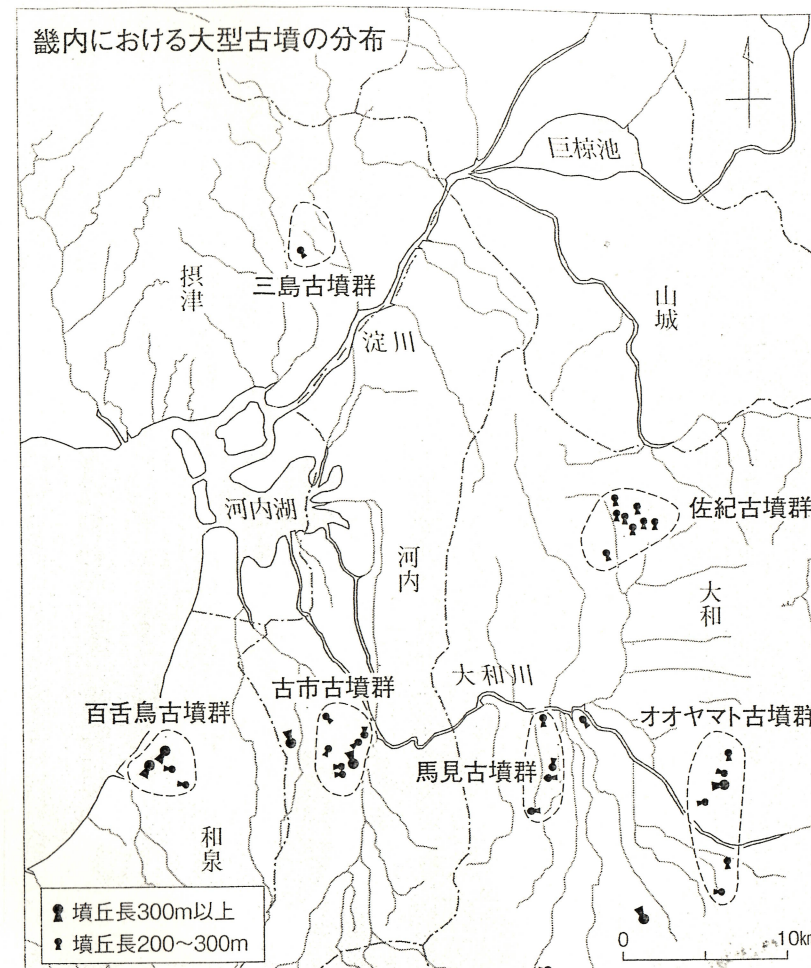
まとめ

朝鮮半島の緊張状態に、倭も軍隊を派遣して対応していた。そこで、高句麗の強力な軍団と戦い、軍備の整備が急務だと考えたのであろう。そのため、多数の技術者を朝鮮半島から招来し、生産技術を高めた。当然ながら、王も軍事的性格が濃厚となり、軍を統率できる人物が王となったのだろう。

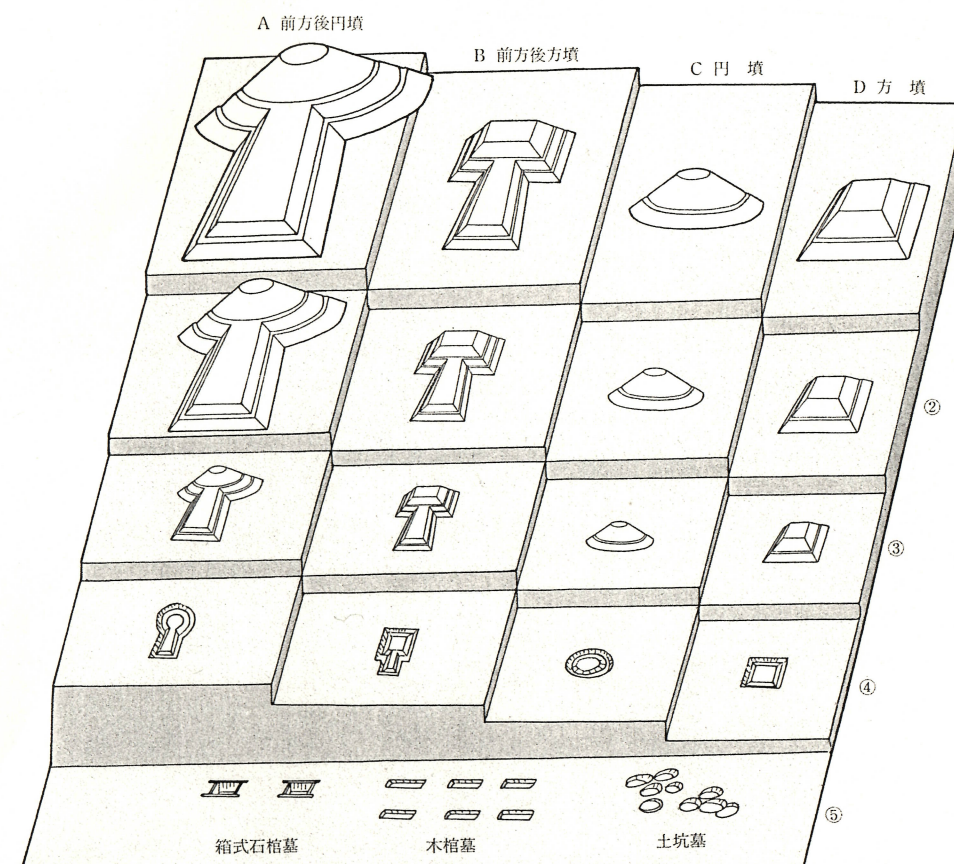
渡来系の人々の多くは、河内湖周辺に定着した。そして、難波（河内）が大陸・半島への窓口として、重視されるようになった。このような状況のなか、河内に百舌鳥・古市古墳群が造営されるようになった。それでは、百舌鳥・古市古墳群を造営したのは、誰だったのか。次回考えてみたいと思います。

参考文献

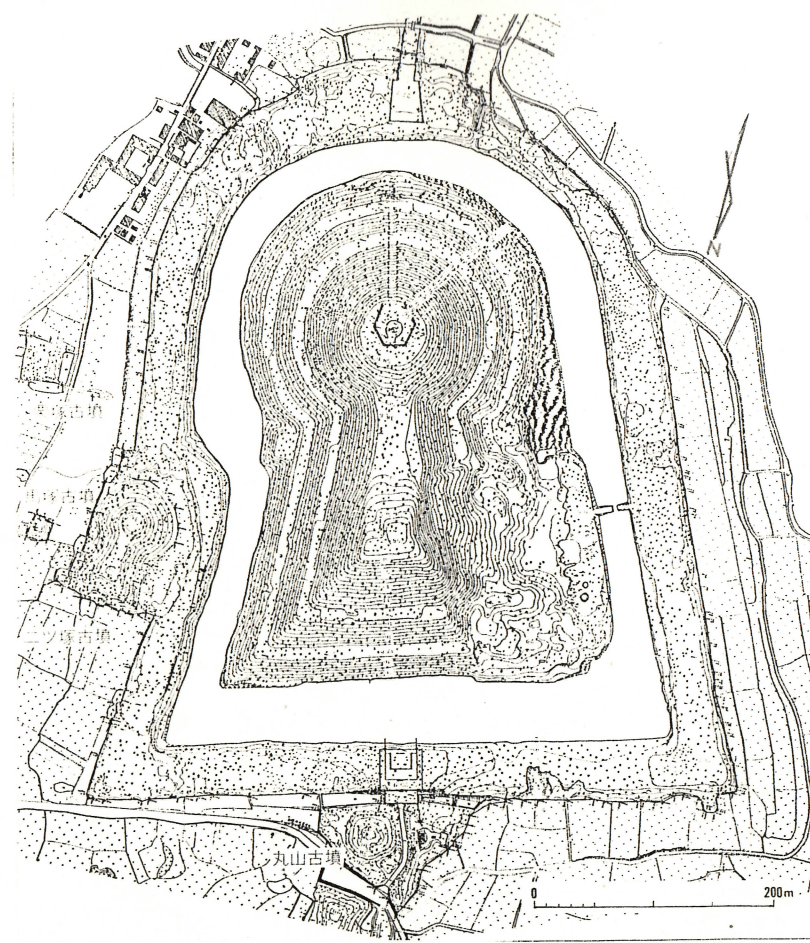
一瀬和夫『百舌鳥・古市古墳群』2016  
 大阪府立近つ飛鳥博物館『仁徳陵古墳』1996  
 大阪府立近つ飛鳥博物館『応神大王の時代』2011  
 大阪府立近つ飛鳥博物館『百舌鳥・古市の陵墓古墳』2011  
 大阪府立狭山池博物館『河内の開発と渡来人』2016  
 京都大学『七観古墳の研究』2014  
 講談社『古代史復元』6 1989  
 白石太一郎『倭国の形成と展開』2013  
 藤井寺市教育委員会『西墓山古墳』1997  
 吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編『前方後円墳』2019



1. 畿内大型古墳の分布



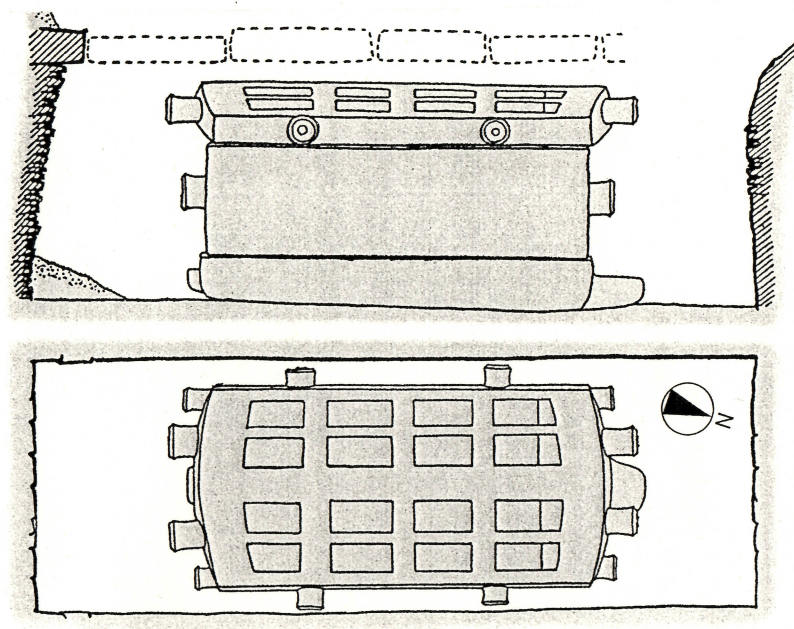
2. 古墳の階層性〔都出比呂志〕



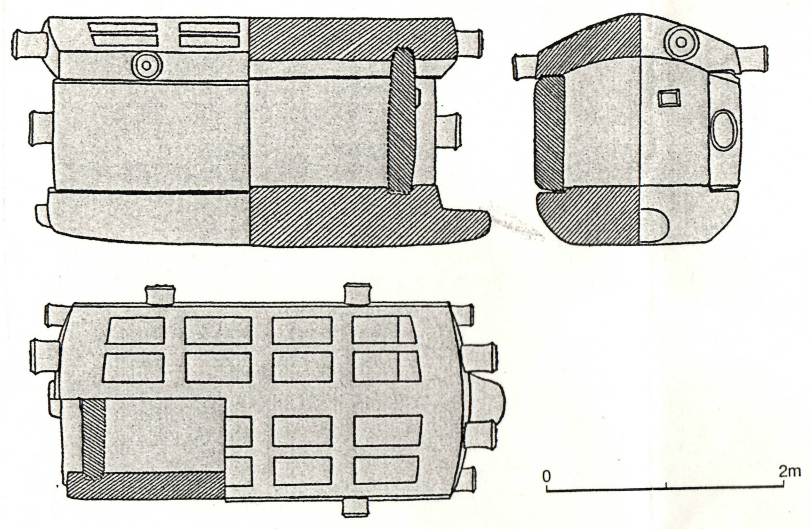
3. 菅田御廟山古墳 (応神天皇陵古墳)

時期	古市古墳群	百舌鳥古墳群	佐紀古墳群	その他の地域
	五期	津堂城山		石塚山
六期	仲津山  嘉山	石津丘	コナベ	室宮山
七期	菅田御廟山	いたすけ	クワナベ	久津川車塚
八期	市野山	大山  御廟山  田出井山	ヒシヤゲ	太田茶臼山  雲部車塚  淡輪ニサンザイ
九期	岡ミサンザイ	上師ニサンザイ		
一〇期	白梨山			

4. 陪冢変遷図

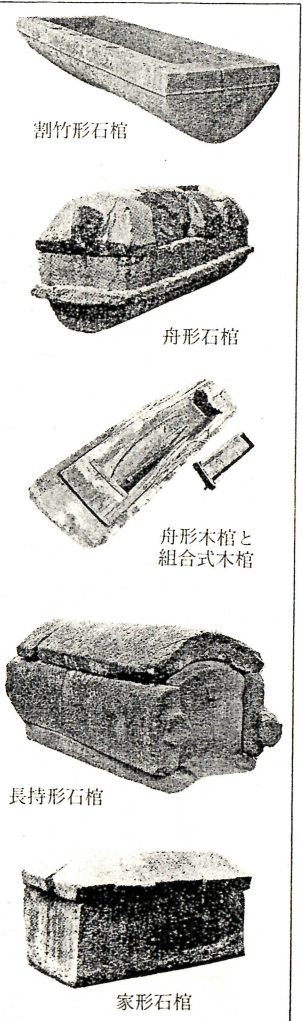


5. 津堂城山古墳後円部埋葬移設



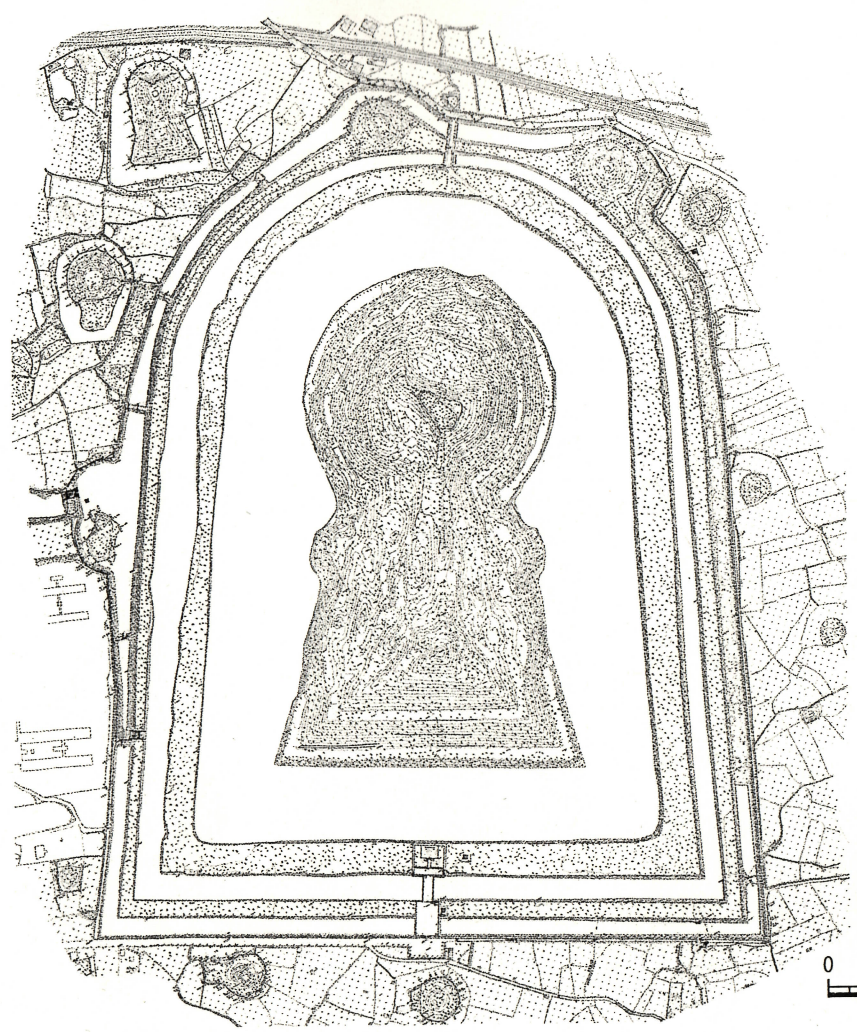
内部施設	時期	古墳時代			飛鳥時代
		前期	中期	後期	(終末期)
棺	据えつける棺	割竹形木棺 組合式木棺 組合式石棺 長持形石棺 舟形石棺 家形石棺 箱式石棺 円筒棺 亀甲形陶棺			
	持ち運ぶ棺	組合式木棺 夾紵棺 漆塗木棺 籃胎棺 四注形陶棺			
槨	竪穴式石槨 粘土槨 横口式石槨				
室	横穴式石室 横穴式木室 横穴				

6. 埋葬施設の変遷 [和田晴吾]

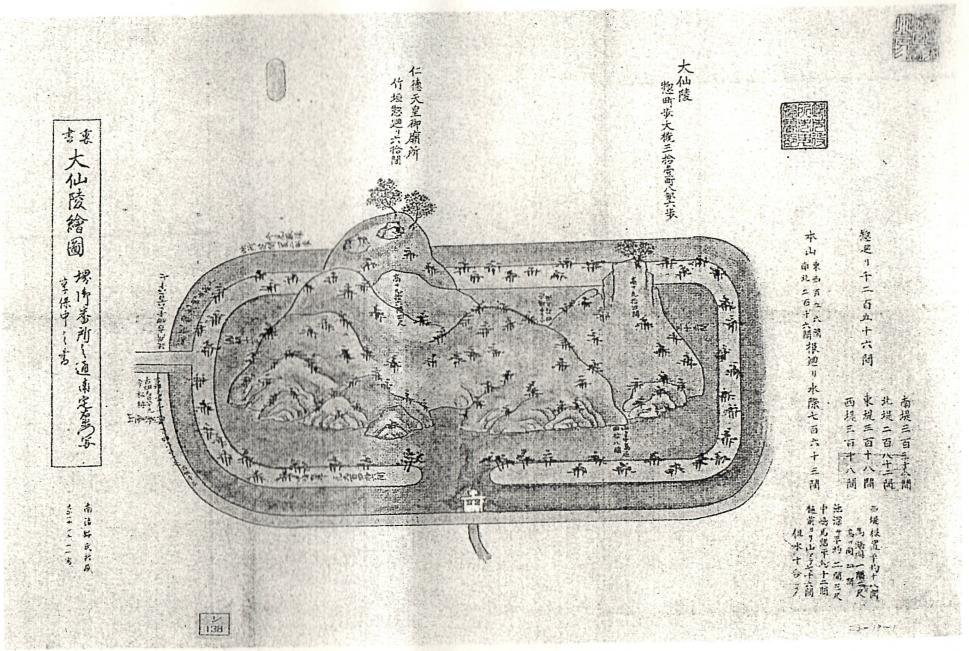


時期	3・4	5	6	7	8
前期	津堂城山	室宮山  玉丘	四天王寺  壇場山	仁徳陵前方部  月ノ岡	雲部車塚  山ノ越
中期	松岳山  花光寺山	正仙塚  谷口後円部西	お富士山	産土山	屋敷山
後期	久津川車塚	法華寺東	阿弥陀橋1	山伏峠	朱千駄

7. 長持形石棺の編年 [和田晴吾]

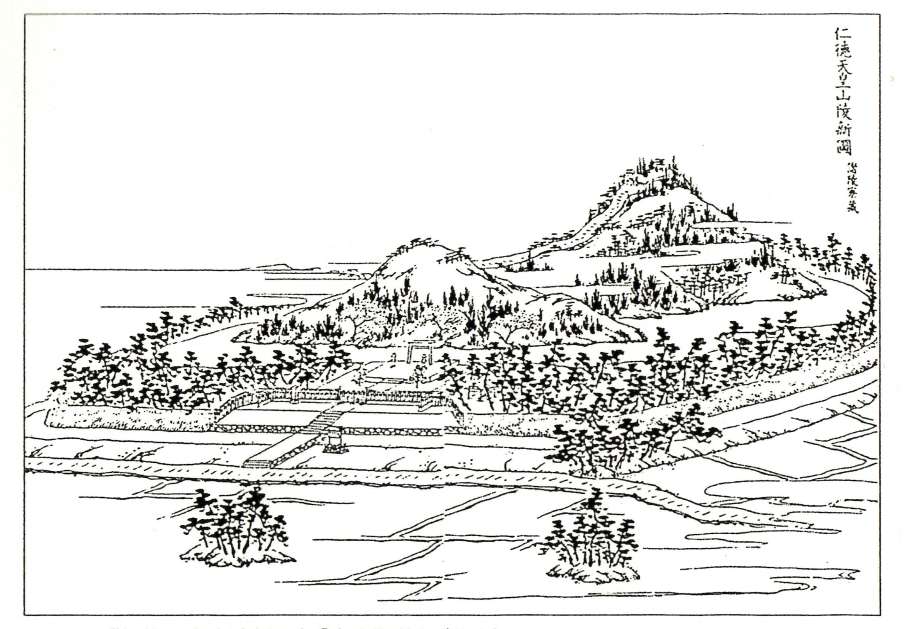


8. 大山古墳 (仁徳天皇陵古墳)



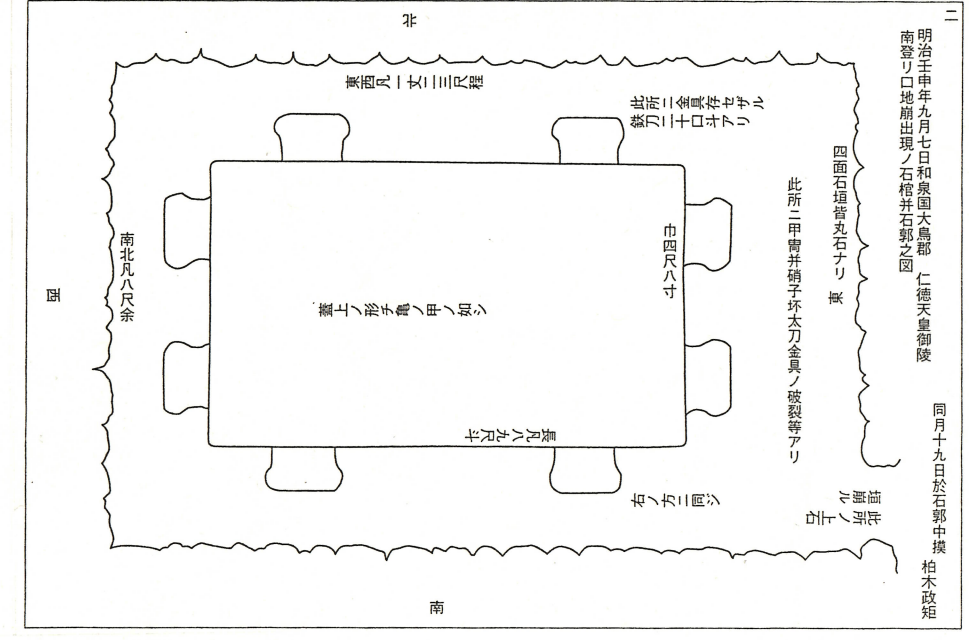
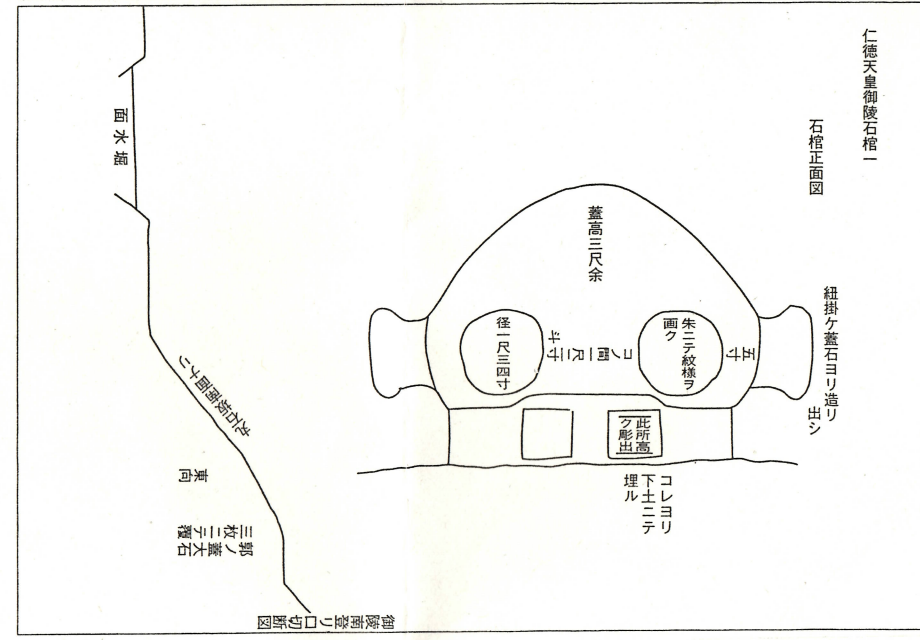
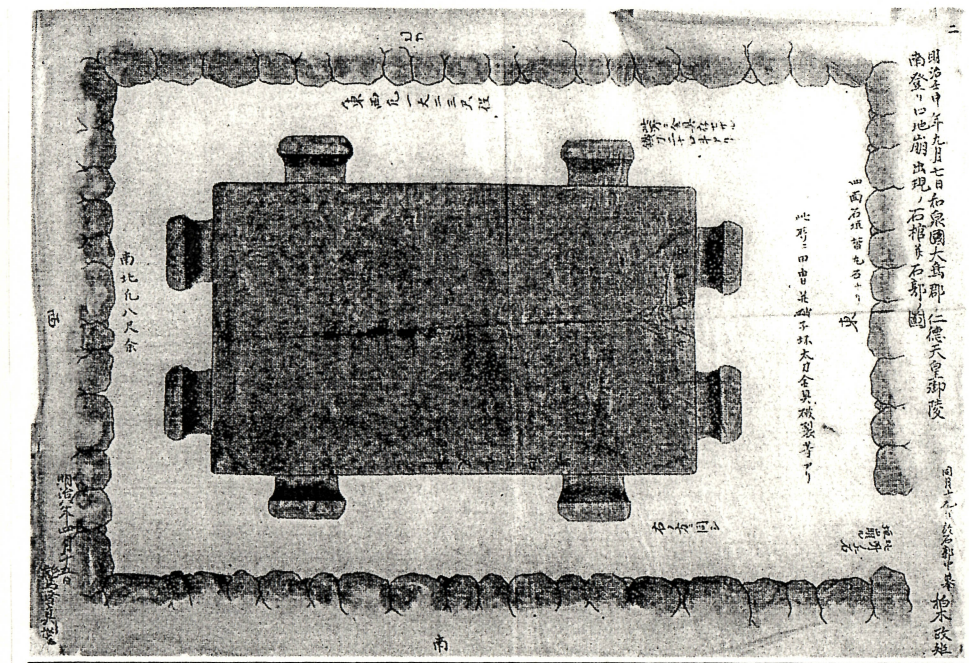
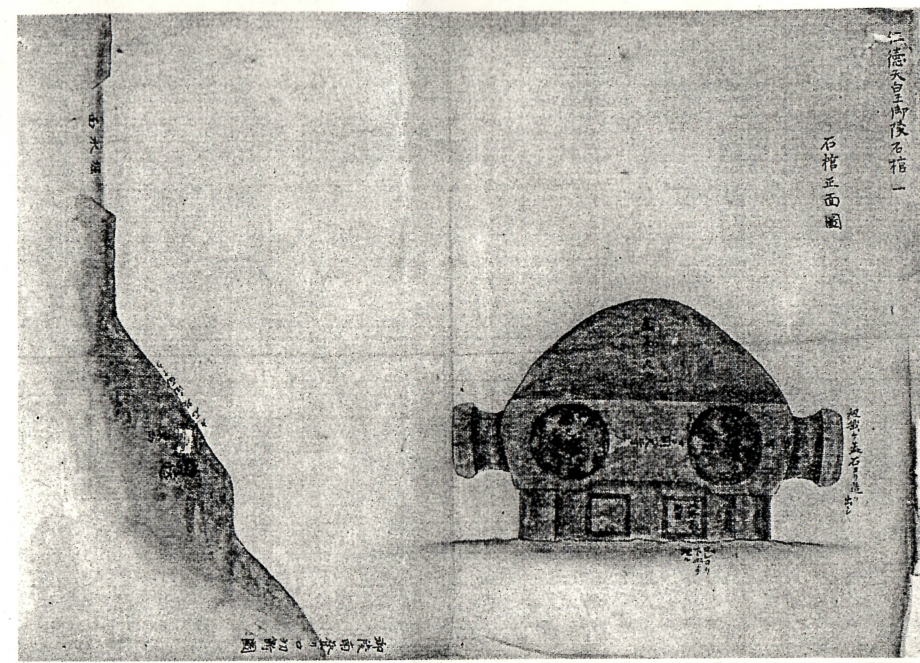
●『大仙陵繪圖』享保年間 (1716 ~ 1735 年)  
 後円部頂には竹垣のなかに石室の天井石とおぼしき大石がある。濠は二重。手前中央では、樋の谷で濠がつながり水門がある。左の茶山古墳のところまで濠をわたる道がある。

9. 『大仙陵繪圖』

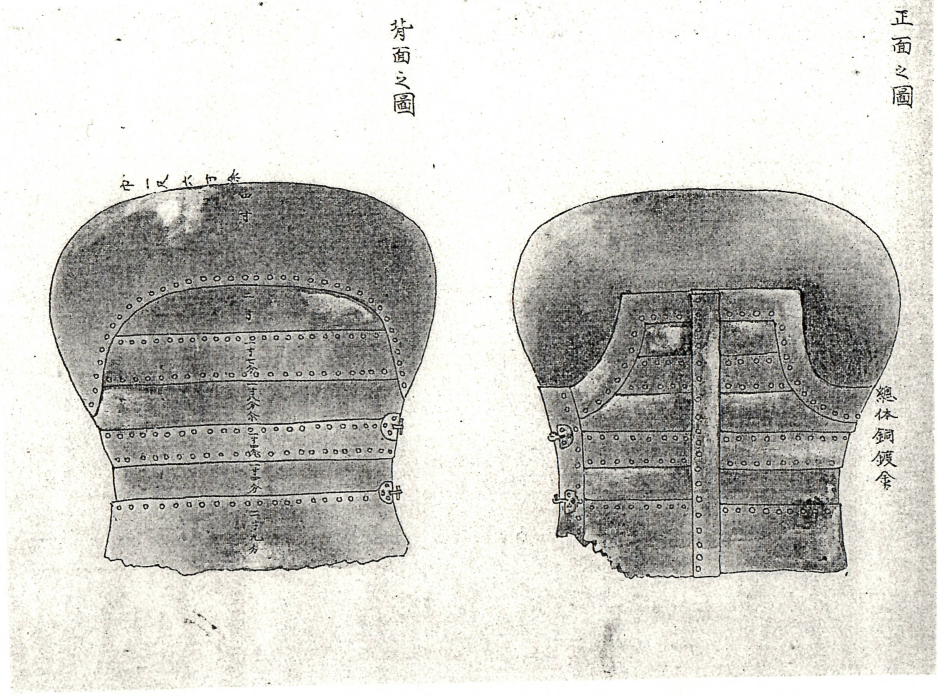


●『仁徳天皇山陵新圖』『古事類苑』(幕末)  
 後円部頂には柵、前方部前面正面に拝所がある。後円部頂と前方部頂をつなぐ道も見られる。手前の左は孫太夫山古墳、右は収塚古墳だろう。

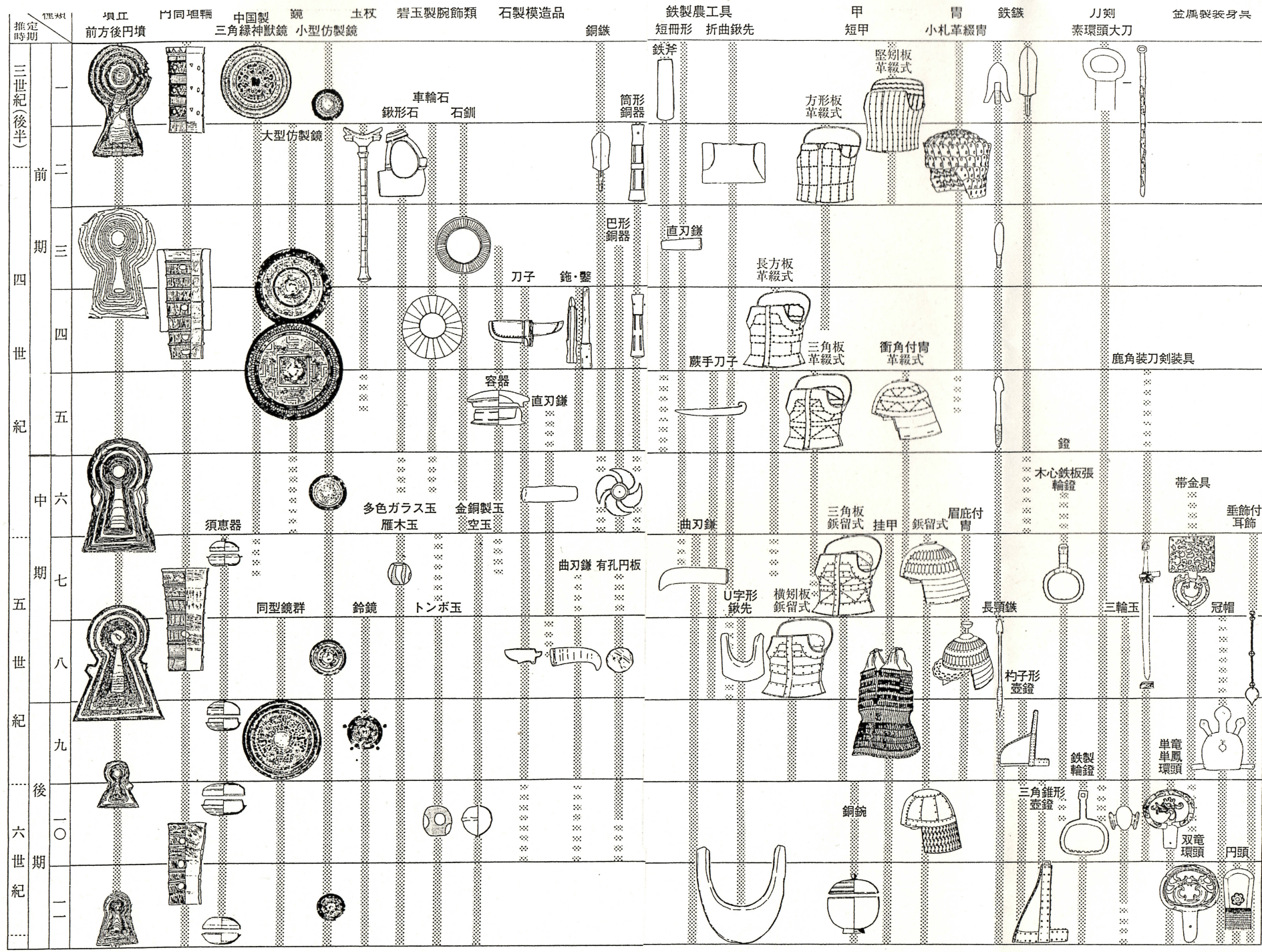
10. 『古事類苑』仁徳天皇山陵新圖



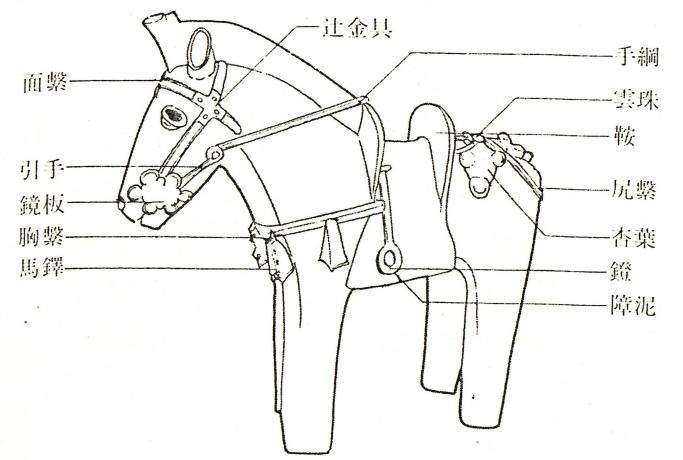
11. 明治5年・大山古墳前方部埋葬施設



12. 大山古墳出土金銅製横矧板鋳留短甲



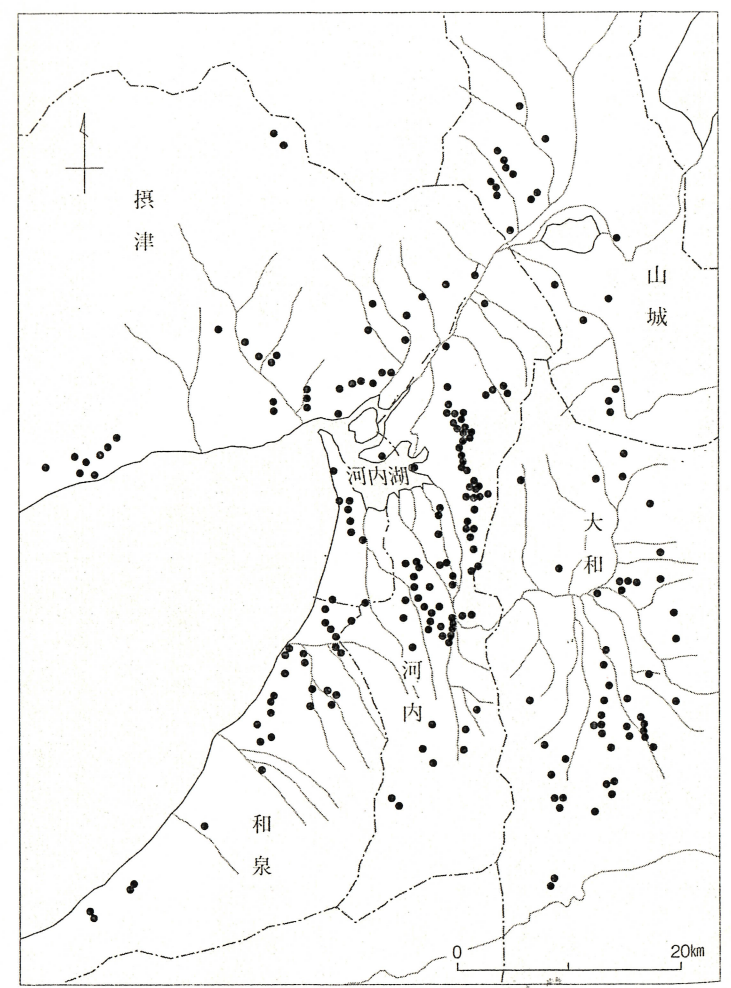
13. 副葬品の変遷



14. 馬具の名称



15. 5世紀の東アジア



16. 韓式系土器出土遺跡

西暦	
313	高句麗が楽浪・帶方兩郡を滅亡させる。
316	西晋滅び、五胡十六国時代始まる。
318	江南に東晋がおこる。
342	前燕、高句麗国内城を攻める。
366	百濟王、倭との通交を求める。
367	百濟王、倭に遣使朝貢する。
369	百濟王世子が七支刀を作る。荒田別・鹿我別が木羅斤資・沙沙奴跪と新羅を撃つ。
371	百濟・近肖古王が高句麗平壤城を攻め、故国原王を戦死させる。
372	百濟・近肖古王が東晋に朝貢し、冊封を受ける。
	百濟・近肖古王が倭に七支刀を贈る。
377	高句麗、新羅とともに前秦に朝貢。
382	葛城襲津彦が新羅を討つ。
391	倭、百濟・新羅を破る。
	高句麗・広開土王即位する。
392	百濟・辰斯王薨じて、阿莘[花]王が即位する。
393	倭人が新羅に侵入し、金城(慶州)を囲む。
396	高句麗・広開土王の百濟侵攻。百濟は以後高句麗の奴客となることを誓う。
397	百濟・阿莘[花]王、太子の腆支(直支)を質として倭に送る。
399	百濟が誓いに背き、倭とともに新羅に侵入。新羅は高句麗に救援を要請。
400	高句麗が新羅を占拠する倭を退け、任那加羅まで追撃する。
402	新羅・実聖王が即位、奈勿王の王子未斯欣を人質として倭国に送る。
404	倭、帯方の故地に出兵、高句麗と海戦し大敗。
405	百濟・阿莘[花]王が薨り、直支王が王位を継ぐ。
	倭、新羅の明活城(慶州)を囲む。
413	倭王、東晋に遣使。
	高句麗・広開土王薨じて、長寿王が即位。
418	新羅・奈勿王の王子未斯欣が、倭国より逃れ還る。
420	劉裕が宋を建国。
421	倭王讃、宋に朝貢。「安東將軍、倭国王」の爵号を授かる。

17. 東アジアと倭・関連年表(400年前後)